

## —ボタン—



学名：*Paeonia suffruticosa* Andr.

科名：ボタン科

属名：ボタン属

産地：中国、日本(奈良県、長野県)、韓国

形態：落葉低木

落葉低木。葉は互生し、有柄。2回3出または2回羽状複葉。小葉は卵形～披針形で3～5裂。幹は直立、分枝。4～5月ごろ枝先に、白、紅、紫など品種によってさまざまな色の大型の花をつける。

成分：フェノール類として paeonol およびその配糖体 paeonoside, paeonolide

モノテルペン配糖体として paeoniflorin を含有する。

使用部位：根皮

生薬名：牡丹皮(ボタンピ)

用途：下腹部の鎮痛薬、鎮痙薬、通経薬、消炎性駆瘀血薬として用いる。

製剤：加味逍遙散、桂枝茯苓丸、八味地黄丸

「立てばシャクヤク、座ればボタン、歩く姿はユリの花」は、古くから美人のたとえとしてよく知られている。これらの植物は全て婦人病の薬草である。

### 参考文献

<http://www.e-yakusou.com/sou/sou334.htm>

[http://www.tokyo-shoyaku.jp/f\\_wakan/wakan2.php?id=220](http://www.tokyo-shoyaku.jp/f_wakan/wakan2.php?id=220)

薬用植物学 改訂第7版 南江堂

最新薬用植物学 廣川書店

2019.4.19 4YM RT